

令和8年度 目標設定書（高齢者支援課）

高齢者支援課長 道地伸男

1 当課の主な業務は次のように定義されます。		
<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者福祉に関すること ・高齢者医療に関すること ・介護保険に関すること 		
2 当課の業務は次の方々のために行われます。		
福祉サービスでは、おおむね65歳以上の町内在住者、介護保険事業では、要介護・要支援状態となった65歳以上の方及び40歳以上で特定疾病に該当する方、後期高齢者医療では、75歳以上の町内在住者のために。		
3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。		
目標名	ゆずっこ元気体操等を通じた地域づくり	
指標名	ゆずフィットの養成数	
数値目標	初期値（令和5年度）	15人/年
	現状値（令和7年度）	9人/年
	目標値（令和8年度）	15人/年
	最終目標値（令和11年度）	35人/年
設定根拠	第六次毛呂山町総合振興計画前期基本計画	
事業概要	住民が主体となり、地域で体操等を通じた地域づくりが実施できるように支援します。	
4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。		
ゆずフィットを養成することにより、介護予防やフレイル予防等を目的とした「ゆずっこ元気体操」が活性化します。また様々な活動を行う「通いの場」を地域住民が主体となり運営していくことを通じて、利用される方々の生きがいや心の居場所、仲間の輪を拓ける拠点となることが期待できます。		
5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。		
働く高齢者の増加等により、体操をサポートする介護予防サポーター(ゆずフィット)の担い手、後継者が不足してきており、体操の継続が困難な地区も出ております。そのため、広報の特集にて、定年退職を迎えた方に向けてのメッセージを発信しました。そしてサポーター9名を養成できました。その後、新たなサポーターが地域に定着していくことが課題です。		
6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。		
広報の特集にて、シニア世代に向けたゆずっこ元気体操の情報を発信していきます。また新たなサポーターが地区に定着していけるようにフォローをしていきます。		

令和8年度 目標設定書（高齢者支援課）

高齢者支援課長 道地伸男

1 当課の主な業務は次のように定義されます。		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者福祉に関すること ・ 高齢者医療に関すること ・ 介護保険に関すること 		
2 当課の業務は次の方々のために行われます。		
<p>福祉サービスでは、おおむね65歳以上の町内在住者、介護保険事業では、要介護・要支援状態となった65歳以上の方及び40歳以上で特定疾病に該当する方、後期高齢者医療では、75歳以上の町内在住者のために。</p>		
3 当課の掲げる数値目標と、その根拠は次のとおりです。		
目 標 名	ゆずっこ元気体操等を通じた地域づくり	
指 標 名	ゆずっこ元気体操の参加者数	
数値目標	初期値（令和5年度）	801人/年
	現状値（令和7年度）	791人/年
	目標値（令和8年度）	844人/年
	最終目標値（令和11年度）	1,000人/年
設定根拠	第六次毛呂山町総合振興計画前期基本計画	
事業概要	住民が主体となり、地域で「ゆずっこ元気体操」を行うことで、介護予防・フレイル予防に繋がるように支援します。	
4 目標達成に向けた取り組みにより、次の効果が期待されます。		
<p>ゆずっこ元気体操により要介護状態になる危険性が高い状態（フレイル）を予防します。また身近な通いの場へ外出することにより、高齢者の閉じこもりを予防します。そして地区ごとに通いの場を開くことで、地域住民のつながりを深めることが期待できます。</p>		
5 昨年度の取り組みの反省点は次のとおりでした。		
<p>ゆずっこ元気体操の拡充として、地区に限定せず、サークル活動内でもゆずっこ元気体操を新たに1箇所を開始し、より多くの住民が参加できる環境を整備しました。またフレイル予防として、理学療法士や管理栄養士等の出前講座を39箇所で行いました。そして関心の高い認知症予防に関して「ゆずっこ元気体操は、みんなで集まり、楽しく活動することで認知症予防になる」というメッセージを周知し、介護予防の重要性を伝えました。またゆずの里ケーブルテレビで各地区の活動を放映しました。反省点として、体力に不安のある方でも通い続けることができるようにしていくことが課題です。</p>		
6 当課は掲げた目標達成のために、次の取り組みを行います。		
<p>ゆずっこ元気体操の効果を改めて周知し、より多くの方が自分ごととして捉えていただけるように発信していきます。特に支援が必要な方々が継続的に参加できる環境づくりを理学療法士と連携しながら調整していきます。またフレイル予防のための専門職による出前講座の充実として、新たな講座（音楽療法、難聴、脳科学、薬剤）を開設することにより、参加者の興味関心に働きかけていきます。</p>		